

LEONTODO

N-ro 28

(1963. Mar.)

HEV

北海道連盟初 DISCIPLINADO 開く

—— ウトナイ湖エースホテルにて ——

昨年の26回北海道Esp大会で Disciplinado por parolekapablo en Hokkaido が提案され、指題として残されていたのは御承知の通り。希望を言われたい J.O 関係の Junuloj が各地万全連絡しあって「なぜかどうだ」、差別はひと考えられぬ、徹底的に交渉べし。中央に在るウトナイ湖畔に丁度好都合の場所がとれたので、次のように決定

ところ 苫小牧市穂苗 市営ウトナイ湖エースホテル

とき 1962年12月30日～1963年1月3日

初めの計画は LEONTODO 前号の予告のように、多くの Veteranoj による講話ということだったが、やはり来るとは都合よくならぬか、Veteranoj とは5名しか居ないが、2名指揮官をへき高橋運送平場局長が研修航海の由で pro laboro とはいいながらイオの工場へ向け出国、「後は53と……」との事で結局地元苫小牧で全部準備、進行……という事になった。

★ Programo は大体次の通り Kantado, Diktado, Parolado, Demando-koj-respondo 等を適当に入れて何とか予定を埋める事ができた。

	30日	31日	1日	2日	3日
9.00	/	各人発表 SIN PREZENTO PAROLADO de 5分	各人発表 SIN PREZENTO Interjekcioj DIKTADO (2回)	各人発表 SIN PREZENTO PAROLADO de 5分	各人発表 Esp 団体について J.E.J.Oについて DIKTADO
12.00		T A	G M A N	G O	
13.00		MALPARHA LEREMONIO SIN PREZENTO	PAROLADO de 5分 privilegia vojo 1:53分	Privilegia vojo 1:53分	DIKTADO (2回) Privilegia vojo 1:53分
17.00					

★参加人員は総数28名 内女子15名、
地方別に氏名を列挙し、次に通り

小樽工芸会 6名 { 佐藤不二雄、 遠谷敏、 高橋悦子、 岩田純子
河村元江、 新谷幸子

札幌工芸会 7名 { 由良悦子 木村昌五郎、 一俣孝代、 永田明子
永田伸夫 後 正子、 金子宏泰

苫小牧工芸会 7名 { 大沢寿子 羽浦実明、 星田淳、 北富隆
浅庭泰子 北富干馬、 越野夏子

室蘭工芸会 4名 平田岩雄、 海田国貞、 山田つゆ、 村不昭徳

函館 一 吉田 栄、 穂川一雄、 由仁一 林 里子

受別 一 辰巳清美、

★ KANTADO

Pronuncia ekzerco としても又 qajiqo。莫からそ Kanto は効果がある、
というわけで、こゝに時金量が同じ Kantado を持っているという組合が、今度の
場合、いくつかの曲を印刷しおいた。毎日歌の Disciplina do のテーマ音楽
(japana) みたいにはったか "Fluanta tajdo", KLEF の Kantado "Floras,
floras. on skarlat" 等多くの人が知っている。その中からよく歌った
"En Kobilidoj En korosidoj", "Himno al Nefmanto" 等。多く
が kunsido で歌って貰った。

★ 各人発表 — Demandoj-kaj-Respondoj

Anonco。通りの各人1名以上の発表。毎日先週通り行つた。準備して貰つた
人、初めの言葉が出る人……。Temo が見わたれば SINPREZENTO で

といふ — とした所 SIMPREZENTO を毎日くりかえす人を見、これ
 せぬ所は Konatigo にはあつたらしい。本人の語が出て来れば、*demandu*
banvole、となり、*Ĉu vi havas nomon?* 否と“質問がとんで”一息爆笑。
loĝejo、*laboro* — 等が復習される。Ĉu vi havas karulon? せ
 F-ino に好んでさく s-ro M に対して “Mi rifuzas respondi!” の
 断言する語がでてくる事がある。Privatenco の問題か。自分で語を
 次々と質問が来ると答えるにはあつた。初めの人は一寸、目のまわりの眼
 につらそう。

★ DIKTADO

復習を diktado をやり出した。語彙の正しいか発音の正しい、理解
 の正確さは、やはりこれに一番にあらわれるようである。教材は *Amendo*
 の *Ekzerco* を使用した。

やつておると答へた、かなりの誤りが発見された。同じ音の語が
 少く、綴りには満足が、千人あられるようにあつた。発音練習は
 次の通り

- 1) |、r の誤り、これは自分自身の発音が目次から正確に区別をしてい
 うからである。次への発音の比較練習が必要である。

diri — *diligente*, *ribelo* — *libero*, *regi* — *legi*
aperas — *popolas*, *fero* — *fejo*, *farto* — *falto*

- 2) 子音連続の間に母音を入る誤り、例えは *skivibi*, *pataro*,
Kujara 等。これにともなう発音の不正確はあるが、日本語の
 ス、フ等が定音 *su*, *ku* である -s, k とあつた母音を

件が不発音で S, K, に近い音であつた。彼が口の発音と Esp の
場合注意すべきで、次の F を発音比練習が大事な事だ。

Stero — sufero, Kero — kulero, starco — sukero.

★ FIUANTA AKVO

この地獄のホステルは2年前に建てられた。なかなかにきれいな建物。
男、女用洗面台と休養室 (lerno ĉambro) を使ふことあつて申し分ない……
と思つていたら、オロ 30P 位の風雨で、忍び弱気はく。前からの風雨が
広いガラス窓にあたり、吹きこみまくるのである。leciono の途中足が下か
冷たくなった。Ni kantas "Fluanta Tajo", kuma, sur la planko
akvo ----.

★ DISCIPLINADO DANĈAS KAJ QLITAS

勇将原野の天宮中に層塔の塔のこのウチノイ環日春から春にかいじす十
場と12又白鳥飛来地として知られた。白鳥は非の時期で、泳ぐ、泳ぐ
上々、早朝や昼休に有る (qe-oj) 数人 元気一杯、凍つて氷上とびま
わつていた、又夕食後とてなれば halo のステレオフレマを修理して持参
のレコーダをかけたダンス、lektuloj を多く、大いに愉快にマイム
マイム、オロの男、オクラマミキヤ …… さては SOCIA の外に移つて
マンボ、ジルバ迄、大いに amikligo の実をあげた。

★ 練習

北海道で初めての Disciplinado 天宮が かなりの考案者
なり lernado の amikligo に成果をあげたことは一応成功をったと

いえる。彼をいえば、全頁、全期向いておらつて、アラスカ分社にやれば、... といふたが、一度にはむりなろう。又このように備しをやりたいとの希望がかりあつた。Jes、まつと多くの novuloj の参加と信じたばかりに備した。場所も位置的にはよかつたが、よく知られていなくてまごつた人があつたらしい。ここは6月の観光シーズンにはなかつたが、其外はわりにおこつたり使えるところ。猶今後 leciono の商売でなく Tuta kunvivado を nur-esp-er-anto によつていく努力が必要と思ふ。

(星田 紀)

イスペラント語強化会館に参加して

由仁 林 里子

星小牧の Esp 会の方からユースホステルでの強化会館に是非参加する様にさそわれ
れて 2日、3日の最終日に参加することにした。

Esperanto には少くもかういふ熱心を持つていたが、今更、強化会館の参加
には少しむりの様に思ひ躊躇致しておりましたが、~~毎~~これに Esp-o
も勉強するよき機会と思ひ心機強く参加致しました。

星小牧よりバスで20分 外ナイ湖に浮かぶ白鳥の群島を想像したり、雪ぐ
たけの勇壮な野を空越に眺めつつは、キャンプ場入口に着きました。
そこより徒歩のみの方程でユースホステルです。

さつそく講習中の室に案内され、会の一員として自己紹介をしまつて
私は講習中の仲間入りを致しましたが、内心「お客様」で終る
のではないかと慶うつを気持ちにしました(一言で会話はできま
んのぞ)。案ずる事もなくすぐその雰囲気にとけこむ事ができました。

、という事は Esp-0の人人は初対面の人に対しては何十年先の知己のよう
に暖かい近親感を感じさせ、又人間的に何か心の通じ合いを持ちつつ自然に
深く交る為めではないでしょうか。これは大きく全人類に通じ合い、そして世
界の平和と協愛につながった事を願わずには いられせん

講習中ではもう人の事、すべて会話は Esp-0で行われる為めに、皆、多量に
表情豊かに、楽しそうにお話をするのにくらべて 私は通訳つきでなければ
お話しが通じませんでした。敬語前後には一も一ま、とクシツツ 卑語を知
る事が出来、結局 強化会館に参加した事により 初心者 myself 「とつと頑固坊主」
とよい 刺激を受け、又人間的にお互に理解し合う為めにも 大変意義のある
会館であったと思いました。そして この様な機会を気軽に度々開く事にな
り Esp-0をますます活性化させる事と思います。

夕食後はそれぞれ自由にレコードを聞いたり、会話の練習、ダンスに
参加したりして 若人達の楽しい夜の一環を過ごし、おすえの Esp-0の閉会
を楽しみに 後朝待しながら、一日は熱事に過ごしました。

★

NOVZELANDO の WISE 氏夫妻を迎えます。

S-ro Frank Wise (73才)

2. Salisbury Rd
Gisborne, New Zealand

D-ino S-ino Wise 夫妻は 4月5日 大阪空港着、日本各地
を廻って 5月19日 函館着、その後1週間 道内観光、各地の
samideanoj の案内を希望。5月26日 千歳空港発。詳しいスケジュール
はその頃に改めて作って欲しいですが 皆さんの御協力を待ちます。

夫妻はたまたまが欧米をひと旅行し 自作のスライドとテープ持参、内容

第50回世界エスペラント大会 北海道後援会について

来る 1956年夏 東京で開催される第50回世界エスペラント記念大会には 北海道にある私共エスペランティストも進んでこれに参加するため 準備はもとより、今から夫々、参加費の貯蓄も始めて下さるようお願い致しますが、又すでにR.O誌上でお承知のように各地方ではすでに後援会を作り、募金を始めています。

私共もここに北海道後援会を作り、皆さんの積極的参加を促したいと思っております。一部の方はすでにR.O誌上でご覧のように寄付金を直接送られた方もあるが、今後はなるべく北海道後援会へまとめて送りたいと思っております。

同封の規約をお読みの上、当振替口座を利用して何回に分けてもよいから昭和39年12月までに一定額をお払い下さい。

連合会への送金は昭和38年6月、12月 昭和39年6月、12月にまとめて送る予定。道内の募金目標額は50万円です!!

すでに寄付中止者は

山内 豊	100,000円	(毎月5000円)
江口 吉吉	10,000	(毎月500円)
高橋 達治	6,000	(毎月300円)
早川 寿	5,000	(1回払)

KION LEGU?

— HISTORIO de la LINGVO ESPERANTO

(E. PRIVAT)

著者 星田 洋

事實は小説よりも奇かいう。その程でなくても fikcio であらう。歴史の流るる感
知らば知る程 教科に多くの深い敬禮を与えてくれる。この本もその裏面に面白い。

今更 Historio ... ぞと云うかとうといわれるかしれない。何しろ出版され
てから 35年たった「古本」である。しかし 遠故知新 (ふるきと近づか
けたらしきをしる) は、常に真理である。

「Esp 始めて 十三年 ... ヨイロ」との KLEの ESP 五万ふしで
言いか 我 ESP 歴 10年になりながら、何と読んだと云ふと、さうはり ...
HO, ve nenion ... なんじ まさか ... いうまでいすまして いうべきに
なつた。

それと 外の教冊と共に読み出したが 特に興味ふかく、読みあせ
のが これである。外のは一寸 読みわしにせし 会社へも持っていって 昼休
に何ページかつづ 読んでいる。

文の程度は “Karlo” (ニヤと 同じ PRIVAT 著) と比べ、その程
むづかしくなつた。しかし 初級読本あたりから すぐとびつくと 1ページに
10~20 位の 新 vortoj があるから 一寸ずつ 読むと 面白い。

しかしこの PRIVAT、惜しくも昨年買つたが 長い Esp 選
集 毎頁とて 人だけに、文に實感があり 刻々やさしい文体で 高度の
内容を 書きあらわしている。

まづ初めに コトバ そのものの 歴史的発展に 立って Esp とヨーロッパ諸語
の 主つ 共通地盤、インヨーロッパ語の 歴史的 説明から 始まる。「ヨーロッパ諸語

の向には大きな差異があつて、それが国際語イスペラントを必要とするのだが、同時に各々の著しい類似点をもつていて、それがイスペラントの基礎をつくり、その成長する語いの源泉となつてゐる……」という買取の文はまさに一言にしてその核心をまわつてゐる。

Deveno de Esp は Zamenhof の Legolibro にあると同じもの、これだけで興味深いが、ほんとうの面白さはすべて後の方にある。フランス時代の野郎 L. de Beaufront の活躍、その内歴史、Ido の分裂にいたる動き、更に komercio, scienco, edukado 等々における応用の成果の konferencoj 等は現在の Esp 運動にも多くの sugestio をよそしてくれる。

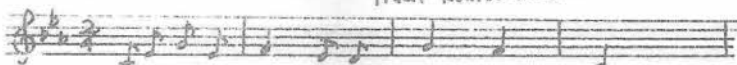
PRIVAT の魅力はなんといつても、その流れたような文体とその中に流れる強い理想主義的情熱である。彼の VIVO DE ZAMENHOF では同病であるが、彼の文体が巨しく esp-isto のモハンとさかたのようにつける。又彼自ら長く Esp 運動の中に身をまかせた人だから多くの貴重な体験を直接語つてゐると同時に彼の至親がその中にまかりなされてきてゐることはやむを得ない。この HISTORIO は 1927 年迄である。それ以後がないのがこの足りないが、彼の書ける Historio de Esp はこの迄をたかましかる。学校友だちだった UEA の創立者 Hector Hodler 等について UEA 会長となり、Esp 運動の指導にあつたが SAT の分裂があり、更に Teo Jung や Akademio と衝突、「独裁的傾向」と攻撃されて、UEA 会長を退いたのが 1928 年 アンターワープ大会の時であつた。

運動指導者としては、このように失敗したとはいへ、とにかく Esp 運動史上の一時期を画する人物であり、よくいふに才能は para tanto

であり、verkisto であつた彼が、その最盛期の情熱をこめて書き上げた
この作品は吾く Espirito 必読の書として、VIVO DE ZAMENHOF によって
高く評価されるだろう。

Apud-Moskva Vespero

Trad. Koniŝi Gaku



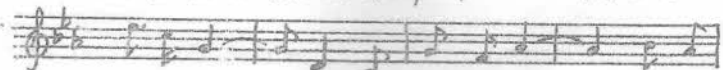
1. Mu-tas nun la park', mu-tas la ar - bar'

2. Flu-ta de ri-ver' flu-as kun su - sur'



dor-mas ĝis ma-ten' ti-e ĉi Ho. ĉu

Sub la he-la lun' de ar-ĝent', kon - to



sci-as vi ka-ras sen kom-par' apud

en tran-kvilit' ŝve-bas tra ne-bul' dum la



mos - kva ves - per' por mi? mi? —

ter - son - ĝas en si - lent'. tont' —

3. Kiom vidas vi, kara junulin'
kun klinita kap' kiel flor'?

Ne kuraĝas mi alparoli vin
pri l' sekreto en mia kor'.

4. Sed alvenas tuj baldaŭ la maten',
kore petas mi do al vi

ne forgesu plu pri l' somero en
apud moskva vesper' kun mi

Mi serĉas korespondantinojn kun s-ro H. Rusak, Jerusalemo
(14714 H. Rusak & 友田 幸三 441 1 10)

D-ro Isamu Yamaga

Lun tagon en Decembro de la lasta jaro mi ricevis
petleteron de s-ro Umeda, Kameoka, kiel jene:

Attestimata Samideano:

Hodisa ni ricevis leteron el Israelo, kiu deziras
trovi malnovan korespondantinojn en Sapporo. Ĉar ni ne
sciis al kiu nia turno por esplori la aferon, ni petas
vian bonvolas helpon.

Lia letro tekstas jene:

"Antaŭ la eksplodo de la milito (mi loĝis tiam en
Antverpeno, Belgujo) mi estis en korespond-kontakto kun
esperantistino en via lando. Kun la eksplodo de la milito
nia korespondado ĉesis. Tiam la milito mi perdis mian
tutan familion kaj miajn tutajn memoraĵojn, restis
al mi nur kelkaj fotografiaĵoj, inter aliaj estas la
fotografiaĵo de ŝi.

"Ŝia adreso: Mitsue Tanaka

Sapporo, Nishi 24th Kita 5

"Bedaŭrinde tiun adreson mi skribas nur lau la
memoro kaj tre povas esti ke mi eraras (pasis ja de
tiam 23 jaroj) en la ajn. Se vi, lau la alia bonvolas

VOJAGO DE DORIS MENCIONITA EN LA SKIA INKULO DE
BOHEMIO

helpi min le vja maniero retrovi ŝian hedonano

adreson, mi estas al vi tre dankema." De Esakawa ŝi

ne ŝa vi bonvolos demandi al iuj malnovaj samideanoj

pri tiu samideanino? Kaj se ni povus ne ĝeni vin,

bonvolu afable sciigi al la Izraela samideano pri

tiu, ni petas. Jen estas lia adreso;

Staro S-ro H. Rusek

Zamenhofa strato 12

Jeruzalemo, Izraelo

Kan entaŭdenko por via komplezemo, ni salutis vin.

Sincere via,

J. Umeda

La redakcio de OCMOTO

Kameoka, Kioto-hu

enmetitaj da respondekaj

ŝiaj fine mi vane serĉis f-inon (eble s-inon)

Mitake Tanaka au la tagjurnalo au pere de malnovaj

samideanoj en Sapporo.

Mi desiras, ke la juna samideanino en Sapporo

respondu kun s-ro H. Rusek, anstataŭ la malnova

samideanino M. Tanaka. Kia antaŭ 23 jaroj havis

kontakton kun li.

Ustanebe samideano de "pingpono" en fabrikotio,

el sinjoro lia laboro en "H.K. Redi" 103 personoj

partoprenis. Dum la festo en H. Khes-Hitein mi estis

potete kanti, tial mi kantis "Tagigu" kaj "Memoreti".

estas la lingvo por ni".

VOJAGO DE DORIS M^WWORCESTER AL LA BELA INSULO DE
HOKKAIDO

(al Omoto)
Sept. 12-a. Porveturis de Kioto je 8.45 al Aomori .
Longa sed tre interesa trajna veturo. De Kanazawa g
gis Aomori estis nova regiono, kiun antaŭe mi ne
havis okazon vidi. Ni veturis suborde de la Japana
Maro. Post c. 15 horoj mi alvenis ĉe Aomori, kie mi
iris rekte al la ŝipo por trans-mar-iri al Hakodate.
La maro estis trankvila kaj mi pasigis 4.30 horojn
en dolca dormo.

14-a. Je la 4.30 a.t.m. mi elsiĝis. S-ro
Josida renkontis min, salutis kaj adiaŭis ĝis rewen-
veturo. Ekepresa-trajno veturis al Otaru. Ĉe Higasi-
Otaru s-ro Hajekawa de Otaru renkontis min en la trajn
-o. Ĉe Otaru Stacio kelkaj Omotoanoj kaj Esperantist
-oj renkontis min, kaj post salutoj, mi estis gvidita
-a al Hokkai Hotelo, kie kelkaj samideanoj regalis
min per luĉo. Mi alvenis ĉe Otaru 11.00 a.t.m.
Post la luĉo ni promenadis kaj vizitis du ĵurnalej-
ojn per intervjuoj. Ili tre gentile akceptis min kaj
presigis artikolojn en la lokaj ĵurnaloj, pri Esp-
eranto. D-ro Jamaga, deligito de U.E.A. bonvenigis
min tre kore por la tria fojo (mi jam vizitis Otaru
kaj Sapporo dum miaj du antaŭaj vizitoj en 1955 kaj
1958). Vespere la Otaru-kluzonoj bonvenigis min.
Ĉeestis ĉ. 20 samideanoj; inter ili estis novaj
ĵanaj membroj.

15-a. Kune kun s-ro Hajekawa mi iris ŝipe
al Sakura por vidi akvarion, kaj vizitis la domon
de fiŝkaptistoj. Estis pluva tago, kaj pro tio
multaj studentoj grupigis. Ili venis por sport-
ludi sed pro la pluvo ili devis resti en la domo.
Ĉi tio donis al mi la okazon paroli al ili pri Esp.
kaj miaj diversaj vjagoj. Ĉ. 30 studentoj.
En la supra ĉambro okazis kunveno de eks-geinstruist
-j. Ili invitis min fari ~~partopreni~~ partopreni
ilian kunsidon, kaj min petis fari paroladon. Ili
treege interesigis pri Esperanto, kaj konsentis
ke ĝi estu instruata en la lernejoj. Ni renenis al
Otaru aŭtobuse. Vespere s-ro Takuji Takahasi aranĝ-
-is ke mi partoprenu en edzinig-festo de f-ino
Utanabe, ĉampionano de "pingpono" aŭ tabloteniso,
al sinjoro kiu laboras en N.H.K. Radio. 103 personoj
partprenis. Dum la festo en Hokkai-Hotelo mi estis
petate kanti, tial mi kantis "Tagigo" kaj "Esperanto
estas la lingvo por ni".

16a. S-roj Takahasi kaj Goto gvidis min al Seppo-ro autobuse laŭ la marbordo. Mi luncis kun 10 sami-desnoj, kaj poste f-ino Nagata, f-ino Ura kaj aliaj kondukis min al proksima parko, sidis sur la herbejo, interparoladis, kantis ktp. en la bela varma suno. Kelkaj aliaj grupigis ĉirkaŭ kaj ffris enketojn pri nia lingvo. Poste ni eniris trinkejon por refresigi. Finfine la du fraŭlinoj gvidis min taksie al la hejmo de s-ro Josihara, kie mi noktigis en tre komforta, moderna ĉambro.

17-a. Matene s-ro Josihara gvidis min autobuse al Otera, kie mi renkontis s-ron Takahasi. Post luno ni iris automobile al Marista Lernejo, kie mi parolis al 60 studentoj pri miaj vojaĝoj per Esperanto. Mi vizitis la hejmon de s-ro Takahasi, kie mi renkontis lisa edzinon kaj du filinetojn. La edzino povas paroli Esperanton kaj la du ĉarmaj filinetoj ankaŭ kantis Esperantan kantojn. Mi restis en la hejmo dum kelkaj horoj, kaj atendis fraŭlinon m, kiu kondukis min al la hejmo de Omoto-centro ---s-ro Ootaki---ĉefe de la Omoto-centro ĉi tie. Kelkaj Omotoanoj kaj Esperantistoj venis kaj s-ro Eguci kaj lia filino helpis en la traduko de mia parolado. Mi noktigis en la hejmo de s-ro Ootaki.

18-a. De Otera mi veturis kune kun s-ro Hajakawa al Takikawa kaj Jamabe kaj uris al la Omoto-centro, kie mi renkontis s-ron Konno, Sibata kaj aliajn. La parolado estis ĉefe pri Flugantoj Diskoj. S-ro Sadagasaki jam legis libron pri tiu temo verkita de prof. Dimija. Tre interesa vespero. Ĉi tie mi noktigas.

19-a. Kelkaj venis al la stacio por adiaŭ min kaj kun s-ro ~~Sato~~ hajakawa kaj juna Esperantisto s-ro Sato, ni veturis al Furano, kie ni vizitis la laborejon de s-ro Sato (tejloro). Poste ni veturis al Asahikawa, kie ni renkontis Aino-grupon, vidis la denojn kaj audis pri la kutimoj de la sinoj. La ĉefe de la aino tribo s-ro Kanetsuna. De Asahigawa ni veturis al Socankjo-valo, kie ni noktigis en la Socankaku-Hotelo.

Nia heroo papelo

La kompanjo de Lang

(daurigota)

Djan Djan Fu Rakonto

Esp-libroj eldonitaj en Vjetnamio

菅小牧 星田 淳

ここ数年、Vjetnamio での Esp 本の発行が極めて盛んになっている。

ハノイに本拠をおく V.P.E.A (Vjetnama Pacldefenda Esp.

Asocio)、市内の百余名の Esp-istoj と協力を Fremdlingov

Eldonejo から次第と発行しているが、なかなか立派な文のしるすく

な samideanoj の多いことがしるされる。かつて中国時代の Regno

の植民地支配と斗い、近代にはフランスの植民地となり二次大戦後

に斗つた後 Djen-Bjen-Fu の勝利により北半がようやく独立という

史をたどる。そして今や南部では激しい独立への斗いがつづいている。

こういう状況を反映して出版本の多くは反植民地斗争に因つたもので

文学的に興味をかき。1963年度の出版計画と注文募集について次

の通りたよりが来ているので注して下さい。猶今迄出版されなかつた、次

のものが菅小牧市王子北星堂 星田淳方に在庫がある。希望者には送料

でおわけするから送料だけ盛つていただければ送ります。又注文あれば

お返しします。

Vjetnamio antaŭen marŝas Nro 1~6 de 1962 隔月刊 B5判
p 32 土曜発行

Memoraĵoj pri Ho Chi Minh

Nia heroo popolo

La kompanjo Kao Lang

Djen Bjen Fu Rakonto

Retanu ilian kriman manon!

La Phu-Loi masbuçado en Sudvietnamio

ベトナムはかつてインドシナとか佛印とかいわれ 中國の南につづく。日本にも縁の深いアジア民族である。写真でみても 顔は日本人そっくり。たゞやがて旧正月行事やさいがある。新南越上に出るベトナムは 独立国であるにもかかわらず 南北は分かれ、南ではアメリカ軍が 政府軍を助け「ベトコン」という 匪賊を討伐している …… という 一方のニュースが アラチラ 出るだけであり、その背景 真相は殆んど 知らされていない。アメリカ軍の近代兵器による 攻撃にかかわらず、なぜ「ベトコン」が 益々勢力をますのか、なぜ 農民の90%を占める「ベトコン」を 支持しているのか — 商業新聞の報道だけでは 知りえない。こういう 面について これらの本は 巻いてくくる。(猶ベトコンというは 南ベトナムの 反政府ゲリラ、反政府勢力、南ベトナム解放 国民戦線—1961年4月 成立—をさすことからして アメリカ側から 名づけたもので、Komunisto だけではない)

南ベトナム問題の 標語として Retanu ilian kriman manon! が 適当。実に 具体的な年月日つきの 事例の 右側に 実情を まさまさと うきほすに してある。1954年 Geneva Konferenco での 南北分割以前 の レジスタンスに ついては 長篇 — Franjo Tu Hail は 佳作である。今 私の 手元には 全部はないが しみじみ心に 訴えるものがある。又 南ベトナムの koncentrejo (強制収容所)の 実態については surtera infero。そこで 起つた 平素以上 毒殺事件は 国連まで 持ち出されたが、La Phu-Loi masbuçado… にくわしい。

Esp は たゞ コトバとして 字が のみでなく、それにより muroj inter

popoloj 5 75 22 kompanio kaj fratrio FKas =

— 二 本 集 の Zamenhof の 理想 に 427 頁 。 著 者 Europe 等

通信 法 監 査 係 長 官 道 川 高 次 郎 氏 宛 へ の 書 信 集 207 頁

同 題 に 関 係 する こと について 友 人 宛 へ の 書 信 集 207 頁

(LE MELIUREJO)

(Romano de Nguyen Kong Hoan)

"SMELIUREJO" -- eldonita en 1938 en Hanojo, dum la malluma periodo de feuda kaj koloniisma superregado. -- estas unu granda verko de la fama konata verkisto Nguyen Kong Hoan.

Grandvalora pro sia realismo, "SMELIUREJO" sukcesas, per sia satira stilo, denanci la tipajn manovrojn de subpremado kaj ekspluatado, fare de la koloniistoj kaj de ties laseoj kontraŭ la honestaj kamparanoj. La aŭtoro majstre pentras la postigitaj -n de pluraj milionoj da vjetnamaj terkulturistoj, politaj al vere senelira situacio...

Tralejgite tiun romanon, oni klare vidas ke la n vjetnamaj kamparanoj havis nenian alian elirejon, krom tia vojo al lukte kontraŭ la reganta imperiismo por rekonkeri sian sendependon kaj sian liberecon.

Formato 13X19

280 paga

Prezo: US\$0.72

LA AVENTUROJ DE ZE MFN

(da To Hoai)

En tiu fantazia rakonto, To Hoai pentras la aventuron de idealon soifanta grilo, kiu ciam revas vivon de naca laboro kaj sanigaj plezuroj. Sed la verko celas ankau ridindigi tiujn malvirtojn, kiaj estas kruelaco, mallebesemo, egoismo, tute konvenas al la infanoj. "LA AVENTUROJ DE ZE MFN" de la fama konata verkisto To Hoai estas tradukta en plarajn fremdlingvojn kaj eldonita en plurj landoj.

Formato 13X19

120 paga

Prezo: US\$ 0.31

ELEKTITAJ PORMOJ

(De Te Han.)

Te manĉestroj la plej fame konata poeto de nova Vjetnamio. Per sia anika nacia karaktero, la poemoj de Te Han spegulas plurajn flankojn de la natslerna vivo de la vjetnama popolo dum cirkaŭ 25 jaroj, rezistado kontraŭ la francaj kolonistoj, rezistado kontraŭ la imperiismo, Socialismo konstruado en Nord-Vjetnamio kaj lukte por nacia reunio.

Kun perfekte stilo kaj rica enhavo, la poemoj de Te Han jen vibrigas majestatan muzikarion por kanti la gloran venkon de la vjetnama popolo en sia lukte kontraŭ la agreso kiel la longdaŭra rezistaĵo, jen elspiras fortegan blovon, kvasan trepenetrentan ois koron por denunci la krimojn feritajn de U.S.A. - Deiam en Sud-Vjetnamio, jen ilustras dolcajn kaj esperigajn esprimojn por pentri la printempan teron de Nord-Vjetnamio kiel konstruante sian natslerna.

-- La lasta fortreso: Formato 13 19

130 page

Prezo: US\$0.30

La manĉestroj sidon...

LA LASTA FORTRESO

(Pomeno de Hu Mei)

La romano spegulas la heran batalon de la Vjetnamio - la Francaj sur la Monteto A. 1. -- Lasta fortreso sur la defend-pozicio de la Franca Ekspedicia Korpuso en Dien Bien Phu. Okazis tie vera hektombo. La malamikoj, fidante al siaj modernaj armiloj kaj potencaj artilerioj, obstine defendis sian pozicion. Siatian-ke, kvankam en la komenco aperis sanceligoj de kelkaj individuoj, ĉiuj hie batalantoj -- oficiroj senkiel soldatoj -- jam montris sian tradician belan heroon, decideme batalis ĝis la lasta homo kaj ilne gloro venkis.

Formato 13 19

400 page

Prezo: US\$ 1.82

introdukta...

... kaj unu...

... kaj de inter...

... K. de ...

...

...

...

...

HEL 事務局より
上記四書註文のついでに下記 V.P.E.A 刊物を参考になす

Hanoi, le 20-mo de Nov., 1963

Estimatej kaj karaĵ geseamdeanoj.

Ni havas la honoron sciigi vin ke la Vjetnama
ŝtata "Socialista Eldonejo", kun laboro de Vjetnama
pacdefenda Esperantista Komitato, eldonis en sia
eldonplano de 1963 jenajn esperantajn librojn ;
-- Elektitaj Poemoj de Tu-hau. -- Senelirejo (romano).
-- La lasta fortreso (romano).

La menciita eldonejo nur povas realigi la
presadon de tiaj libroj kiam sufiĉas la kvanto de
antaŭmenduloj. Tiel, ni proponas, ke vi akurate
sendu mendoliston al SURHASABA, 32 Hai Ba Trung
Hanh, Vjet-nam. (kun 1 kopio al V.P.E.A. por kontrolo)

Esperante, ke vi fervore subtenu la laboron
de la vjetnamaj geseperantistoj per realigo efektiva
igi la eldonadon de la menciitaj libroj, ni sincere
antaŭdankas vin kaj ni deziras al vi multen sukceson
en via vivo kaj en via laboro por la servo de Mond-
paco kaj de interpopola amikeco.

Por C.K. de V.P.E.A.

viceprezidento

Vguyôn công MÔn

註) 添紙の半紙はなるべく航空便(50円)を、*12 (VIA PEKING)

を言っておいた方がよい。

HEL 事務局 大"カ"

ウチノイ湖湖の名の Disciplinado が最初の読みとして、またウチの sukceso をかき置くとはい S-ro Hosida を中心とする地元の放り samidokuroj の penada にあつたので大変うれしく思ひます。

さて、今号発刊までに書かれたものいろいろの今後の mia esp-movado に関する御意見を別記しておきます。

① "Informilo de Leontodo" は名前がおかしい。D-ro Yamaga は Informilo de HEL とすべきであるといわれ、S-ro Hosida は "Leontodo" とすべきであるといわれた。まづ、印刷で Leontodo の名を冠するのにはつかないのでもう今号は心臓強く Leontodo としました。高会費納入者がおかげで大層多くなり 経済的ゆとりもできましたので次号あたり従前通りの LUKSA 紙にもどしてみたいと思つています。

② N-ro 27 の presado が悪い — という御意見。どうも筆記簿の行が悪く、Duplo という校報はかり版の行を縮小がかけないのでも、それにアインライフ — が 1930年製の大分イカれたものでも — 御了承のこと。

③ 第50回世界スバル大会北海道連絡会を別記のうりに発表しました。一度払いにすると ~~相当~~ 相当の金額で月会費 (20ヶ月位) にふたは pos-monero といふにあらうわけ" 例えは 月額 200円といふ 20ヶ月 4000円にあらうわけ" 事務局に寄付定額と月掛額をお知らせして

毎月徳音用紙で送金して頂く。 (予教科事務局負担) 事務局から折返し
領收書を送る方法をとりこむと教えます。

④ 次の IHEL KONGRESSO を 7 月中に開催されるという並小牧の
希望がありました。並小牧 2 名は Japana kongresso に出席希望の samu
deonoj が相当数ありまのこ。その protokolo を ついて 東京に出たという
わけです。是非どうしたいと思ひます。

⑤ 世界大会までには エス又北海道案内を制作したい。(S-to Ho-fido)
1961 年 25 回大会で proponi されたのに 26 回 IHEL 大会では
この propono が消えてしまった。

会費納入有難うございました。事務局に不在で領收証を発行でき
ませんでした。どうか寛く容れたらうから (pardonu!) 領收書
郵便料を節約して 次のように会計報告に記載致しました。

会計報告 (Jan ~ Mar. 1963)

前回報告分残額 (N-ro 27 号)		12,658 円
収入	藤田 一郎	500
	山 箕 寛	2,000
	柏 沢 治 雄	300
	アリマ ヨシハル	200
	高 橋 寿 一	200
	吉 原 正 八 郎	200
	山 崎 久 蔵	200
	ゴト-ヨシノブ	200
	由 良 悦 子	200
	児 王 広 文	200
	ナガヲ アキコ	200

フランスの EKSPOZICIO には 協カエ

フランスの ESP 会が Ekspozicio Internespana
協カ集積がきてゐる。Gesamidea; helpu reciproke,
internacie!

La esperanta sekcio de la LAIKA ANIKARO
aranĝos ekspozicionojn Internespanon

Atable sendu salutkartojn kaj esperantajĝojn
al la kursvidantoj

15-17 Rue de Bourgeois

21 rue Gambetta

Noyelles-Godault

(P-de-C)

Francej

手紙の日付は 62年12月20日。早めの返事を乞ふ。この
世界大会に出展する S-ro Taro Nishiumi 宛に
郵便切手をつけて

原稿募集!!

N-ro 29-2 の原稿を送つて下さい。

5月15日原稿/切 5月30日発行予定



U.K 北海道後援会に協力しよう
